

文部科学省共同利用・共同研究拠点「社会神経科学研究拠点」主催シンポジウム  
「神経科学的アプローチによる発達研究の最前線」

2019年3月8日（金）に玉川大学大学研究室棟 B104 教室にて「神経科学的アプローチによる発達研究の最前線」を開催した。これまでわが国では精神疾患や発達障害を対象とした脳構造や脳機能の発達研究は多く行われてきたが、定型発達における脳発達の研究においては限られた研究しか行われてはこなかった。近年、ヒトの脳が社会的環境を通じてどのように発達していくのか注目が集まっていることから、本シンポジウムではヒトの社会性の発達に関して神経科学的アプローチを用いている研究者に話題提供を行っていただいた。

（脳科学研究所 高岸治人）



日時：2019年3月8日（金）13：00-17：45

場所：玉川大学大学研究室棟 B104 会議室

話題提供者、およびタイトル：

森口佑介先生（京都大学大学院 教育学研究科）

「幼児期における実行機能の発達の脳内機構」

多賀巖太郎先生（東京大学大学院 教育学研究科）

「脳の初期発達における自発性と共生」

明和政子先生（京都大学大学院 教育学研究科）

「周産期からの身体感覚と社会的認知の発達の関連」

小池進介先生（東京大学総合文化研究科）

「思春期コホートからみる精神疾患」

長井志江先生（情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター）

「社会性の起源を探る：予測符号化に基づくニューロロボティクス」

國吉康夫（東京大学大学院 情報理工学系研究科）

「胎児発達シミュレーションに基づく自律性・社会性融合システム原理の解明の試み」